

【表紙】

| | |
|------------|-----------------------------------|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 平成23年8月5日 |
| 【四半期会計期間】 | 第35期第2四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日） |
| 【会社名】 | Y K T株式会社 |
| 【英訳名】 | YKT CORPORATION |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 市岡 通 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都渋谷区代々木五丁目7番5号 |
| 【電話番号】 | 03（3467）1251（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 財務部長 伊藤 博之 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京都渋谷区代々木五丁目7番5号 |
| 【電話番号】 | 03（3467）1251（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 財務部長 伊藤 博之 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号） |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第34期 第2四半期連結 累計期間 | 第35期 第2四半期連結 累計期間 | 第34期 第2四半期連結 会計期間 | 第35期 第2四半期連結 会計期間 | 第34期 |
|------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|
| 会計期間 | 自平成22年 1月1日 至平成22年 6月30日 | 自平成23年 1月1日 至平成23年 6月30日 | 自平成22年 4月1日 至平成22年 6月30日 | 自平成23年 4月1日 至平成23年 6月30日 | 自平成22年 1月1日 至平成22年 12月31日 |
| 売上高(千円) | 4,050,686 | 4,851,886 | 1,994,414 | 2,790,331 | 8,251,017 |
| 経常利益(は損失)(千円) | 57,435 | 134,605 | 10,146 | 67,873 | 3,316 |
| 四半期(当期)純利益(は純損失)(千円) | 137,168 | 130,076 | 40,854 | 67,672 | 39,132 |
| 純資産額(千円) | - | - | 5,199,107 | 5,163,502 | 5,031,541 |
| 総資産額(千円) | - | - | 8,408,435 | 8,122,540 | 7,616,100 |
| 1株当たり純資産額(円) | - | - | 437.65 | 434.35 | 423.53 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益金額(は純損失金額)(円) | 11.58 | 10.96 | 3.45 | 5.70 | 3.30 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円) | 11.53 | 10.93 | 3.43 | 5.68 | - |
| 自己資本比率(%) | - | - | 61.7 | 63.5 | 66.0 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー(千円) | 1,037,953 | 428,046 | - | - | 274,897 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー(千円) | 209,420 | 3,448 | - | - | 573,105 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー(千円) | 449,604 | 68,171 | - | - | 635,613 |
| 現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円) | - | - | 2,224,500 | 1,138,857 | 1,637,474 |
| 従業員数(人) | - | - | 126 | 125 | 125 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第34期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

3【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成23年6月30日現在

| | |
|---------|-----|
| 従業員数（人） | 125 |
|---------|-----|

（注）従業員数は、就業人員であります。

(2) 提出会社の状況

平成23年6月30日現在

| | |
|---------|----|
| 従業員数（人） | 96 |
|---------|----|

（注）従業員数は、就業人員であります。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1)生産実績

該当事項はありません。

(2)仕入実績

当第2四半期連結会計期間の仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 当第2四半期連結会計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 前年同四半期比(%) |
|-----------------|---|------------|
| 電子機器及び工作機械等(千円) | 1,939,728 | - |
| 光電子装置(千円) | 106,775 | - |
| 合計(千円) | 2,046,504 | - |

(注) 仕入高には消費税等は含まれておりません。

(3)受注状況

当第2四半期連結会計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 受注高(千円) | 前年同四半期比 (%) | 受注残高(千円) | 前年同四半期比 (%) |
|-------------|-----------|----------------|-----------|----------------|
| 電子機器及び工作機械等 | 3,060,856 | - | 3,970,019 | - |
| 光電子装置 | 156,355 | - | 75,036 | - |
| 合計 | 3,217,212 | - | 4,045,055 | - |

(注) 1. 受注高及び受注残高は販売金額によっております。なお、受注高には条件変更、為替変動等に伴う金額調整分を含めております。

2. 受注高及び受注残高には、消費税等は含まれておりません。

(4)販売実績

当第2四半期連結会計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 当第2四半期連結会計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 前年同四半期比(%) |
|-----------------|---|------------|
| 電子機器及び工作機械等(千円) | 2,652,934 | - |
| 光電子装置(千円) | 137,397 | - |
| 合計(千円) | 2,790,331 | - |

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 前第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

| 相手先 | 前第2四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) | | 当第2四半期連結会計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | |
|----------------------------------|---|-------|---|-------|
| | 金額(千円) | 割合(%) | 金額(千円) | 割合(%) |
| チャイリース・リソーシ ス・テクノロジー社(台 湾) | 557,014 | 27.9 | 1,242,037 | 44.5 |

3. 本表の金額には消費税等は含まれておりません。

2【事業等のリスク】

当第2半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

(継続企業の前提に関する重要事象等について)

当社グループは前連結会計年度において国内販売の落ち込み、在庫商品の評価損計上等の理由により3期連続の営業損失を計上いたしました。

当第2四半期連結会計期間においては、電子機器(電子部品実装機等)の輸出販売体制を強化した結果、中華圏(台湾・中国)向けの販売が伸長し、売上総利益は4億6千6百万円(前年同期比22.1%増)となりました。また在庫の適正化と経費削減策を継続実施したことなどにより、営業利益5千7百万円(前年同期は5百万円の営業損失)を計上いたしました。通期業績には景気の先行き不透明感があることから、依然として前連結会計年度に引き続き、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況は存在していると判断しております。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、新興国需要の増加により企業業績に回復の兆しが見られ、景気は緩やかな回復基調で推移しましたが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災が日本経済に甚大な被害をもたらし、これにより企業の生産活動が停滞するなど大きな影響が見られました。

当社グループの主要販売先である電機・機械・自動車等の製造業においては、この震災の影響は受けたものの全体的な設備投資が回復傾向にあり、電子機器の輸出販売が堅調に推移した結果、連結売上高は27億9千万円(前年同期比39.9%増)となりました。損益面では売上高の増加により営業利益5千7百万円(前年同期は5百万円の営業損失)、経常利益6千7百万円(前年同期比569.0%増)、四半期純利益6千7百万円(前年同期比65.6%増)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(電子機器及び工作機械等)

電子部品実装機を中心とした電子機器は、中華圏(台湾、中国)の電機各社が、携帯端末向けの設備投資を加速したことにより輸出需要が増加しました。また、国内向けの工作機械等でも設備投資需要が回復したことにより、当セグメントの売上高は26億5千2百万円、営業利益は5千8百万円となりました。

(光電子装置)

光電子装置の販売は、前期販売実績の大きかった光アンプ販売が減少した結果、当セグメントの売上高は1億3千7百万円、営業損失は1百万円となりました。

(2)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は第1四半期連結会計期間末に比べ8百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末残高は11億3千8百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は1億7千4百万円(前年同期は12億2千万円の獲得)となりました。これは主として、税金等調整前四半期純利益が6千7百万円、たな卸資産の減少額が2億7千6百万円となりましたが、売上債権の増加額6億3千7百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は3百万円(前年同期は8百万円の獲得)となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出4百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は1億6千9百万円(前年同期は1億9千6百万円の使用)となりました。これは主として、長期借入による収入3億円がありましたが、長期借入金の返済による支出1億2千4百万円があったことによるものです。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況について

当社グループは前連結会計年度において国内販売の落ち込み、在庫商品の評価損計上等の理由により3期連続の営業損失を計上いたしました。

当第2四半期連結会計期間においては、電子機器（電子部品実装機等）の輸出版売体制を強化した結果、中華圏（台湾・中国）向けの販売が伸長し、売上総利益は4億6千6百万円（前年同期比22.1%増）となりました。また在庫の適正化と経費削減策を継続実施したことなどにより、営業利益5千7百万円（前年同期は5百万円の営業損失）を計上いたしました。が、通期業績には景気の先行き不透明感があることから、依然として前連結会計年度に引き続き、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況は存在していると判断しております。

当社グループの対応策としては、今後も設備投資が順調な中華圏（台湾・中国）への販売体制の強化と、工作機械等の輸入機械を既存の機械・工具・自動車を中心とした従来の業界に加え、医療器具やクリーンエネルギー関連の成長分野へ積極展開するとともに、在庫商品の適正化や、経費削減策の定着化により収益の改善に努めてまいります。その結果、通期での営業利益計上は十分可能と判断しております。

従いまして、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」には記載しておりません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末において計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 40,000,000 |
| 計 | 40,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年6月30日) | 提出日現在発行数(株) (平成23年8月5日) | 上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名 | 内容 |
|------|------------------------------------|----------------------------|-------------------------------|-----------|
| 普通株式 | 11,888,740 | 11,888,740 | 大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード) | 単元株式数100株 |
| 計 | 11,888,740 | 11,888,740 | - | - |

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成23年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の権利行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成17年3月29日定時株主総会決議

| | 第2四半期会計期間末現在 (平成23年6月30日) |
|--|---|
| 新株予約権の数(個) | 27 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数(個) | - |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 |
| 新株予約権の目的となる株式の数(株) | 3,240(注) |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円) | 1株当たり1 |
| 新株予約権の行使期間 | 自平成17年6月2日 至平成37年6月1日 |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円) | 発行価格 1 資本組入額 1 |
| 新株予約権の行使の条件 | (1)対象者は、新株予約権を割当てられた時に就任していた会社の取締役を退任したときに限り、新株予約権を行使することができる。ただし、この場合対象者は、対象者が上記の取締役を退任した翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から当該権利行使開始日より10日を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使できる。 (2)新株予約権の質入その他一切の処分は認めない。 (3)対象者が死亡した場合、その相続人は、当該取締役が死亡退任した日の翌日から3ヶ月を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使できる。 (4)各新株予約権1個当たり的一部行使は認めない。 (5)この他の権利行使の条件は、当社と対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」において定めるところによる。 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 新株予約権を譲渡するときは、取締役会の承認を必要とする。 |
| 代用払込みに関する事項 | |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | |

(注) 当社が株式分割または株式併合を行う場合、それぞれの効力発生の時をもって、次の算式により新株予約権の目的たる株式の数を調整するものいたします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的となる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てます。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が合併又は会社分割を行う場合等、目的たる株式の数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、合併又は会社分割等の条件を勘案のうえ、合理的な範囲で目的たる株式数を調整するものいたします。

平成17年3月29日定時株主総会決議

| | 第2四半期会計期間末現在 (平成23年6月30日) |
|--|---|
| 新株予約権の数(個) | 1,200 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数(個) | - |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 |
| 新株予約権の目的となる株式の数(株) | 144,000(注) |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円) | 1株当たり 375 |
| 新株予約権の行使期間 | 自 平成19年6月1日 至 平成24年5月31日 |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円) | 発行価格 375 資本組入額 188 |
| 新株予約権の行使の条件 | (1)対象者は、権利行使時においても、当社または当社の子会社の役員(取締役または監査役)もしくは従業員の地位にあることを要す。ただし、任期満了による退任、定年退職、転籍、その他取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りでない。 (2)新株予約権の質入その他一切の処分は認めない。 (3)対象者が死亡した場合、本新株予約権の相続は認められないものとする。 (4)各新株予約権1個当たり的一部行使は認めない。 (5)この他の権利行使の条件は、当社と対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」において定めるところによる。 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 新株予約権を譲渡するときは、取締役会の承認を必要とする。 |
| 代用払込みに関する事項 | |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | |

(注) 当社が株式分割または株式併合を行う場合、それぞれの効力発生の時をもって、次の算式により新株予約権の目的たる株式の数を調整するものといたします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的となる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てます。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が合併又は会社分割を行う場合等、目的たる株式の数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、合併又は会社分割等の条件を勘案のうえ、合理的な範囲で目的たる株式数を調整するものといたします。

平成18年3月29日定時株主総会決議

| | 第2四半期会計期間末現在 (平成23年6月30日) |
|--|---|
| 新株予約権の数(個) | 42 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数(個) | - |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 |
| 新株予約権の目的となる株式の数(株) | 4,200(注) |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円) | 1株当たり1 |
| 新株予約権の行使期間 | 自平成18年6月2日 至平成38年6月1日 |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円) | 発行価格 1 資本組入額 1 |
| 新株予約権の行使の条件 | (1)対象者は、新株予約権を割当てられた時に就任していた会社の取締役を退任したときに限り、新株予約権を行使することができる。ただし、この場合対象者は、対象者が上記の取締役を退任した翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から当該権利行使開始日より10日を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使できる。 (2)新株予約権の質入その他一切の処分は認めない。 (3)対象者が死亡した場合、その相続人は、当該取締役が死亡退任した日の翌日から3ヶ月を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使できる。 (4)各新株予約権1個当たりの一部行使は認めない。 (5)この他の権利行使の条件は、当社と対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」において定めるところによる。 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 新株予約権を譲渡するときは、取締役会の承認を必要とする。 |
| 代用払込みに関する事項 | |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | |

(注) 当社が株式分割または株式併合を行う場合、それぞれの効力発生の時をもって、次の算式により新株予約権の目的たる株式の数を調整するものいたします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的となる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てます。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が合併又は会社分割を行う場合等、目的たる株式の数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、合併又は会社分割等の条件を勘案のうえ、合理的な範囲で目的たる株式数を調整するものいたします。

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成19年3月29日定時株主総会決議

| | 第2四半期会計期間末現在 (平成23年6月30日) |
|--|---|
| 新株予約権の数(個) | 47 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数(個) | - |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 |
| 新株予約権の目的となる株式の数(株) | 4,700(注) |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円) | 1株当たり1 |
| 新株予約権の行使期間 | 自平成19年6月2日 至平成39年6月1日 |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円) | 発行価格 1 資本組入額 1 |
| 新株予約権の行使の条件 | (1)対象者は、新株予約権を割当てられた時に就任していた会社の取締役を退任したときに限り、新株予約権を行使することができる。ただし、この場合対象者は、対象者が上記の取締役を退任した翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から当該権利行使開始日より10日を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使できる。 (2)新株予約権の質入その他一切の処分は認めない。 (3)対象者が死亡した場合、その相続人は、当該取締役が死亡退任した日の翌日から3ヶ月を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使できる。 (4)各新株予約権1個当たりの一部行使は認めない。 (5)この他の権利行使の条件は、当社と対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」において定めるところによる。 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 新株予約権を譲渡するときは、取締役会の承認を必要とする。 |
| 代用払込みに関する事項 | |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | |

(注) 当社が株式分割または株式併合を行う場合、それぞれの効力発生の時をもって、次の算式により新株予約権の目的たる株式の数を調整するものいたします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的となる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てます。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が合併又は会社分割を行う場合等、目的たる株式の数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、合併又は会社分割等の条件を勘案のうえ、合理的な範囲で目的たる株式数を調整するものいたします。

平成20年3月26日定時株主総会決議

| | 第2四半期会計期間末現在 (平成23年6月30日) |
|--|---|
| 新株予約権の数(個) | 60 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数(個) | - |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 |
| 新株予約権の目的となる株式の数(株) | 6,000(注) |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円) | 1株当たり1 |
| 新株予約権の行使期間 | 自平成20年6月2日 至平成40年6月1日 |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円) | 発行価格 1 資本組入額 1 |
| 新株予約権の行使の条件 | (1)対象者は、新株予約権を割当てられた時に就任していた会社の取締役を退任したときに限り、新株予約権を行使することができる。ただし、この場合対象者は、対象者が上記の取締役を退任した翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から当該権利行使開始日より10日を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使できる。 (2)新株予約権の質入その他一切の処分は認めない。 (3)対象者が死亡した場合、その相続人は、当該取締役が死亡退任した日の翌日から3ヶ月を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使できる。 (4)各新株予約権1個当たりの一部行使は認めない。 (5)この他の権利行使の条件は、当社と対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」において定めるところによる。 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 新株予約権を譲渡するときは、取締役会の承認を必要とする。 |
| 代用払込みに関する事項 | |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | |

(注) 当社が株式分割または株式併合を行う場合、それぞれの効力発生の時をもって、次の算式により新株予約権の目的たる株式の数を調整するものいたします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的となる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てます。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が合併又は会社分割を行う場合等、目的たる株式の数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、合併又は会社分割等の条件を勘案のうえ、合理的な範囲で目的たる株式数を調整するものいたします。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総 数増減数 (千株) | 発行済株式総 数残高 (千株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金増 減額(千円) | 資本準備金残 高(千円) |
|--------------------------|------------------------|-----------------------|----------------|---------------|------------------|-----------------|
| 平成23年4月1日～ 平成23年6月30日 | - | 11,888 | - | 1,385,709 | - | 1,373,361 |

(6) 【大株主の状況】

平成23年6月30日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数 (千株) | 発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%) |
|--|---|---------------|------------------------------------|
| 山本 久子 | 東京都渋谷区 | 2,423 | 20.38 |
| 山本 庸一 | 東京都世田谷区 | 1,906 | 16.03 |
| 中川 陽一郎 | 神奈川県鎌倉市 | 265 | 2.23 |
| 大阪証券金融株式会社 | 大阪市中央区北浜2-4-6 | 193 | 1.63 |
| Y K T 社員持株会 | 東京都渋谷区代々木5-7-5 | 179 | 1.50 |
| 原田 一雄 | 東京都世田谷区 | 159 | 1.33 |
| 渡邊 隆司 | 川崎市麻生区 | 142 | 1.20 |
| 株式会社みずほ銀行(常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会 社) | 東京都中央区晴海1-8-12 晴海アイラン ドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟 | 142 | 1.19 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 東京都千代田区丸の内2-7-1 | 142 | 1.19 |
| 品川 次郎 | 東京都渋谷区 | 100 | 0.84 |
| 計 | | 5,656 | 47.57 |

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年6月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-----------------|----------|----|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 10,200 | - | - |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 11,798,700 | 117,987 | - |
| 単元未満株式 | 普通株式 79,840 | - | - |
| 発行済株式総数 | 11,888,740 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 117,987 | - |

【自己株式等】

平成23年6月30日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数(株) | 他人名義所有株式数(株) | 所有株式数の合計(株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|------------|------------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|
| Y K T株式会社 | 東京都渋谷区代々木五丁目7番5号 | 10,200 | - | 10,200 | 0.09 |
| 計 | - | 10,200 | - | 10,200 | 0.09 |

2【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

| 月別 | 平成23年1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
|-------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 最高(円) | 182 | 292 | 239 | 190 | 172 | 196 |
| 最低(円) | 143 | 148 | 89 | 139 | 144 | 148 |

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

3【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の異動はありません。

第5【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第2四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年6月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第2四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年6月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第2四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第2四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東光監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 当第2四半期連結会計期間末 (平成23年6月30日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日) |
|-------------|-------------------------------|---|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,147,862 | 1,644,677 |
| 受取手形及び売掛金 | 2,187,356 | 1,299,000 |
| 商品 | 590,805 | 643,592 |
| その他 | 638,884 | 428,451 |
| 貸倒引当金 | 1,969 | 2,281 |
| 流動資産合計 | 4,562,939 | 4,013,439 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 514,825 | 530,770 |
| 土地 | 1,741,611 | 1,741,611 |
| その他(純額) | 73,620 | 89,953 |
| 有形固定資産合計 | 2,330,057 | 2,362,335 |
| 無形固定資産 | | |
| その他 | 14,161 | 13,304 |
| 無形固定資産合計 | 14,161 | 13,304 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 97,491 | 97,990 |
| 投資不動産(純額) | 741,118 | 749,300 |
| 差入保証金 | 312,863 | 315,439 |
| その他 | 195,468 | 195,850 |
| 貸倒引当金 | 131,559 | 131,559 |
| 投資その他の資産合計 | 1,215,381 | 1,227,021 |
| 固定資産合計 | 3,559,600 | 3,602,660 |
| 資産合計 | 8,122,540 | 7,616,100 |

(単位：千円)

| | 当第2四半期連結会計期間末 (平成23年6月30日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日) |
|---------------|-------------------------------|---|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 865,732 | 623,493 |
| 短期借入金 | 400,000 | 400,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 321,739 | 463,006 |
| 1年内償還予定の社債 | 100,200 | 100,200 |
| 未払法人税等 | 22,325 | 14,918 |
| その他 | 654,341 | 484,913 |
| 流動負債合計 | 2,364,338 | 2,086,532 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 149,700 | 199,800 |
| 長期借入金 | 258,604 | 111,145 |
| 退職給付引当金 | 169,697 | 165,206 |
| その他 | 16,699 | 21,875 |
| 固定負債合計 | 594,700 | 498,026 |
| 負債合計 | 2,959,038 | 2,584,558 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,385,709 | 1,381,582 |
| 資本剰余金 | 1,997,995 | 1,997,995 |
| 利益剰余金 | 1,761,626 | 1,655,270 |
| 自己株式 | 3,116 | 3,087 |
| 株主資本合計 | 5,142,215 | 5,031,762 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 7,791 | 8,087 |
| 繰延ヘッジ損益 | 22,437 | 1,698 |
| 為替換算調整勘定 | 13,051 | 14,828 |
| 評価・換算差額等合計 | 17,177 | 8,438 |
| 新株予約権 | 4,108 | 8,217 |
| 純資産合計 | 5,163,502 | 5,031,541 |
| 負債純資産合計 | 8,122,540 | 7,616,100 |

(2) 【 四半期連結損益計算書 】
【 第 2 四半期連結累計期間 】

(単位 : 千円)

| | 前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年 6月30日) | 当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年 6月30日) |
|---------------------|--|--|
| 売上高 | 4,050,686 | 4,851,886 |
| 売上原価 | 3,248,952 | 3,920,456 |
| 売上総利益 | 801,733 | 931,430 |
| 販売費及び一般管理費 | 774,215 | 816,254 |
| 営業利益 | 27,518 | 115,175 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 9,648 | 3,959 |
| 受取配当金 | 3,723 | 3,133 |
| 仕入割引 | 12,542 | 16,784 |
| 不動産賃貸料 | 16,902 | 16,902 |
| その他 | 17,057 | 2,216 |
| 営業外収益合計 | 59,873 | 42,994 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 15,155 | 8,159 |
| 不動産賃貸費用 | 12,650 | 11,588 |
| その他 | 2,151 | 3,816 |
| 営業外費用合計 | 29,956 | 23,564 |
| 経常利益 | 57,435 | 134,605 |
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | 63,896 | - |
| 貸倒引当金戻入額 | 243 | 312 |
| 特別利益合計 | 64,140 | 312 |
| 特別損失 | | |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | - | 1,695 |
| 特別損失合計 | - | 1,695 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 121,575 | 133,222 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 3,958 | 17,593 |
| 法人税等調整額 | 19,550 | 14,447 |
| 法人税等合計 | 15,592 | 3,145 |
| 四半期純利益 | 137,168 | 130,076 |

【第2四半期連結会計期間】

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) | 当第2四半期連結会計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) |
|---------------|---|---|
| 売上高 | 1,994,414 | 2,790,331 |
| 売上原価 | 1,611,978 | 2,323,427 |
| 売上総利益 | 382,436 | 466,903 |
| 販売費及び一般管理費 | 388,221 | 409,764 |
| 営業利益又は営業損失() | 5,785 | 57,138 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 4,627 | 2,054 |
| 受取配当金 | 2,460 | 2,448 |
| 仕入割引 | 8,193 | 9,650 |
| 不動産賃貸料 | 8,451 | 8,451 |
| その他 | 8,941 | 937 |
| 営業外収益合計 | 32,672 | 23,541 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 7,061 | 3,664 |
| 不動産賃貸費用 | 8,028 | 7,497 |
| その他 | 1,651 | 1,644 |
| 営業外費用合計 | 16,741 | 12,806 |
| 経常利益 | 10,146 | 67,873 |
| 特別利益 | | |
| 貸倒引当金戻入額 | 243 | 479 |
| 特別利益合計 | 243 | 479 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 10,389 | 67,393 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,753 | 4,626 |
| 法人税等調整額 | 28,711 | 4,905 |
| 法人税等合計 | 30,464 | 279 |
| 四半期純利益 | 40,854 | 67,672 |

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 121,575 | 133,222 |
| 減価償却費 | 36,637 | 38,872 |
| 受取利息及び受取配当金 | 13,371 | 7,092 |
| 支払利息 | 15,155 | 8,159 |
| 売上債権の増減額(は増加) | 11,718 | 921,124 |
| たな卸資産の増減額(は増加) | 37,749 | 53,423 |
| 仕入債務の増減額(は減少) | 794,716 | 258,066 |
| その他 | 63,978 | 17,917 |
| 小計 | 1,044,721 | 418,554 |
| 利息及び配当金の受取額 | 13,721 | 6,980 |
| 利息の支払額 | 12,671 | 6,504 |
| 法人税等の支払額 | 7,818 | 9,966 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,037,953 | 428,046 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | 1,060 | 5,530 |
| 投資有価証券の売却による収入 | 183,611 | - |
| その他 | 26,869 | 2,081 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 209,420 | 3,448 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入れによる収入 | 300,000 | - |
| 短期借入金の返済による支出 | 300,000 | - |
| 長期借入れによる収入 | - | 300,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | 448,458 | 293,808 |
| 社債の償還による支出 | - | 50,100 |
| 配当金の支払額 | 1,130 | 23,044 |
| その他 | 16 | 1,218 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 449,604 | 68,171 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 2,130 | 1,048 |
| 現金及び現金同等物の増減額(は減少) | 795,638 | 498,617 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,428,861 | 1,637,474 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 2,224,500 | 1,138,857 |

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

| | |
|-----------------|---|
| | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日) |
| 会計処理基準に関する事項の変更 | 資産除去債務に関する会計基準の適用 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用しております。 これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益が111千円、税金等調整前四半期純利益は1,807千円減少しております。また当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は1,695千円であります。 |

【簡便な会計処理】

| | |
|---------------------|---|
| | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日) |
| 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法 | 繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異の発生状況に著しい変化が認められない場合には、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法により算定しております。 |

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

| 当第2四半期連結会計期間末 (平成23年6月30日) | | 前連結会計年度末 (平成22年12月31日) | |
|-------------------------------|-----------|---------------------------|-----------|
| 有形固定資産の減価償却累計額 | 956,993千円 | 有形固定資産の減価償却累計額 | 921,229千円 |
| 投資不動産の減価償却累計額 | 57,024千円 | 投資不動産の減価償却累計額 | 48,842千円 |

(四半期連結損益計算書関係)

| 前第2四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年6月30日) | | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日) | |
|---|-----------|---|-----------|
| 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次の通りであります。 | | 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次の通りであります。 | |
| 給与手当 | 277,671千円 | 給与手当 | 271,162千円 |

| 前第2四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) | | 当第2四半期連結会計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | |
|---|-----------|---|-----------|
| 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次の通りであります。 | | 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次の通りであります。 | |
| 給与手当 | 141,266千円 | 給与手当 | 132,259千円 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

| 前第2四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日) |
|--|--|
| 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借 対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年6月30日現在) | 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借 対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年6月30日現在) |
| 現金及び預金勘定 2,229,903千円 | 現金及び預金勘定 1,147,862千円 |
| 預け入れ期間が6ヶ月を超える 定期預金 5,402千円 | 預け入れ期間が6ヶ月を超える 定期預金 9,005千円 |
| 現金及び現金同等物 2,224,500千円 | 現金及び現金同等物 1,138,857千円 |

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成23年6月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式11,888,740株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式10,289株

3. 新株予約権等に関する事項

ストック・オプションとしての新株予約権

新株予約権の四半期連結会計期間末残高 親会社 4,108千円

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり配 当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|-------------|------------|-------|
| 平成23年3月28日 定時株主総会 | 普通株式 | 23,720 | 2.00 | 平成22年12月31日 | 平成23年3月29日 | 利益剰余金 |

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期末後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

当社グループは設備機械の販売商社として、同一セグメントに属する電子機器、工作機械、測定機器、産業機械及び光電子部品の販売を行っており、当該事業以外に種類がないため該当事項はありません。

前第2四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年6月30日)

当社グループは設備機械の販売商社として、同一セグメントに属する電子機器、工作機械、測定機器、産業機械及び光電子部品の販売を行っており、当該事業以外に種類がないため該当事項はありません。

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間（自平成22年4月1日至平成22年6月30日）

全セグメントの売上高の合計に占める国内事業の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

前第2四半期連結累計期間（自平成22年1月1日至平成22年6月30日）

全セグメントの売上高の合計に占める国内事業の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第2四半期連結会計期間（自平成22年4月1日至平成22年6月30日）

| | アジア | その他の地域 | 計 |
|----------------------|---------|--------|-----------|
| 海外売上高（千円） | 897,515 | 70 | 897,586 |
| 連結売上高（千円） | - | - | 1,994,414 |
| 連結売上高に占める海外売上高の割合（%） | 45.0 | 0.0 | 45.0 |

- （注）1．国または地域は、地理的近接度により、区分しております。
 2．各区分に属する国または地域の内訳は次のとおりであります。
 （1）アジア.....台湾、中国
 （2）その他の地域.....米国他
 3．海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。

前第2四半期連結累計期間（自平成22年1月1日至平成22年6月30日）

| | アジア | その他の地域 | 計 |
|----------------------|-----------|--------|-----------|
| 海外売上高（千円） | 1,633,250 | 673 | 1,633,924 |
| 連結売上高（千円） | - | - | 4,050,686 |
| 連結売上高に占める海外売上高の割合（%） | 40.3 | 0.0 | 40.3 |

- （注）1．国または地域は、地理的近接度により、区分しております。
 2．各区分に属する国または地域の内訳は次のとおりであります。
 （1）アジア.....台湾、中国
 （2）その他の地域.....米国他
 3．海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象としているものであります。

当社グループは、主として、電子部品実装機を中心とした電子機器や金属加工目的の工作機械等の生産設備及び製品の形状測定を行う測定機器の販売、ならびに光通信、レーザー関連の光電子装置の販売を行っており、これらの事業を行っている当社グループの親会社及び子会社を基礎とした製品別のセグメントから構成した事業セグメントを集約した「電子機器及び工作機械等」と「光電子装置」を報告セグメントとしております。

「電子機器及び工作機械等」は、主として国内メーカーの電子部品実装機（チップマウンタ、LCDボンダ等）等の電子機器の販売、海外メーカーの工作機械（工具研削盤、平面研削盤等）、測定機器、産業機械等の生産設備の販売をしております。

「光電子装置」は、光通信関連の光アンプとその他部品、研究用レーザー機器及びレーザー加工装置等の販売をしております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間（自平成23年1月1日至平成23年6月30日）

（単位：千円）

| | 電子機器及び 工作機械等 | 光電子装置 | 計 | 調整額 (注)1 | 四半期連結損益 計算書計上額 (注)2 |
|-------------------|-----------------|---------|-----------|-------------|---------------------------|
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 4,578,171 | 273,715 | 4,851,886 | - | 4,851,886 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | - | 73 | 73 | 73 | - |
| 計 | 4,578,171 | 273,788 | 4,851,959 | 73 | 4,851,886 |
| セグメント利益 | 98,219 | 16,039 | 114,259 | 916 | 115,175 |

(注)1. セグメント利益の調整額にはセグメント間取引消去 916千円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結会計期間（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）

（単位：千円）

| | 電子機器及び 工作機械等 | 光電子装置 | 計 | 調整額 (注)1 | 四半期連結損益 計算書計上額 (注)2 |
|--------------------|-----------------|---------|-----------|-------------|---------------------------|
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 2,652,934 | 137,397 | 2,790,331 | - | 2,790,331 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | - | - | - | - | - |
| 計 | 2,652,934 | 137,397 | 2,790,331 | - | 2,790,331 |
| セグメント利益又は損失 () | 58,210 | 1,596 | 56,613 | 524 | 57,138 |

(注)1. セグメント利益の調整額にはセグメント間取引消去 524千円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(1 株当たり情報)

1 . 1 株当たり純資産額

| 当第 2 四半期連結会計期間末 (平成23年 6月30日) | | 前連結会計年度末 (平成22年12月31日) | |
|----------------------------------|---------|---------------------------|---------|
| 1 株当たり純資産額 | 434.35円 | 1 株当たり純資産額 | 423.53円 |

2 . 1 株当たり四半期純利益金額等

| 前第 2 四半期連結累計期間 (自平成22年 1月 1日 至平成22年 6月30日) | | 当第 2 四半期連結累計期間 (自平成23年 1月 1日 至平成23年 6月30日) | |
|--|--------|--|--------|
| 1 株当たり四半期純利益金額 | 11.58円 | 1 株当たり四半期純利益金額 | 10.96円 |
| 潜在株式調整後 1 株当たり四半期 純利益金額 | 11.53円 | 潜在株式調整後 1 株当たり四半期 純利益金額 | 10.93円 |

(注) 1 株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおり
であります。

| | 前第 2 四半期連結累計期間 (自平成22年 1月 1日 至平成22年 6月30日) | 当第 2 四半期連結累計期間 (自平成23年 1月 1日 至平成23年 6月30日) |
|---|--|--|
| 1 株当たり四半期純利益金額 | | |
| 四半期純利益 (千円) | 137,168 | 130,076 |
| 普通株主に帰属しない金額 (千円) | - | - |
| 普通株式に係る四半期純利益 (千円) | 137,168 | 130,076 |
| 期中平均株式数 (株) | 11,841,805 | 11,870,717 |
| 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額 | | |
| 四半期純利益調整額 (千円) | - | - |
| 普通株式増加数 (株) | 52,679 | 26,893 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当 たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があったも のの概要 | | |

| 前第2四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) | | 当第2四半期連結会計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | |
|---|-------|---|-------|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 3.45円 | 1株当たり四半期純利益金額 | 5.70円 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益金額 | 3.43円 | 潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益金額 | 5.68円 |

(注) 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第2四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) | 当第2四半期連結会計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) |
|---|---|---|
| 1株当たり四半期純利益金額 | | |
| 四半期純利益(千円) | 40,854 | 67,672 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - | - |
| 普通株式に係る四半期純利益(千円) | 40,854 | 67,672 |
| 期中平均株式数(株) | 11,852,416 | 11,878,451 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 | | |
| 四半期純利益調整額(千円) | - | - |
| 普通株式増加数(株) | 52,679 | 26,893 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要 | | |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年7月31日

Y K T株式会社
取締役会 御中

東光監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 佐藤 明充 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 勝 伸一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているY K T株式会社の平成22年1月1日から平成22年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、Y K T株式会社及び連結子会社の平成22年6月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1．上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管してあります。

2．四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年8月1日

Y K T株式会社
取締役会 御中

東光監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 佐藤 明充 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 勝 伸一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているY K T株式会社の平成23年1月1日から平成23年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、Y K T株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1．上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管してあります。

2．四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。